佐久市埋蔵文化財調査報告書　第105集

曽根城遺跡Ⅲ

SO NE JOH

長野県佐久市小田井曽根城遺跡Ⅲ調査報告書

2003.3

株式会社安井建設
佐久市教育委員会

例　言

1　本書は、株式会社安井建設が行う宅地造成事業に伴い、平成14年度に行った曽根城遺跡Ⅲの発掘調査報告書である。

2　調査委託者　　株式会社安井建設

3　調査受託者　　佐久市教育委員会

4　遺跡名及び所在地

曽根城遺跡Ⅲ　（ＯＳＪⅢ）

佐久市大字小田井字曽根城

5　調査期間及び面積

曽根城遺跡Ⅲ　　発掘調査　平成14年４月22日～５月９日

面　　積　２１１㎡

整理作業　平成14年５月10日～８月30日

6　発掘作業及び整理作業、本書の編集、執筆は出澤が行った。

7　本書及び曽根城遺跡Ⅲ出土遺物等すべての資料は、佐久市教育委員会の管理下に保管されている。

本調査、また報告書作成にあたりお世話になったすべての方々に、記して感謝の意を表します。

凡　例

1　遺構の略号は以下の通りである。

竪穴住居址　－Ｈ　　堀立柱建物址　－Ｆ　　土坑　－Ｄ　　ピット　－Ｐ

2　挿図の縮尺は以下の通りである。

竪穴住居址・堀立柱建物址　１／80　　土坑　１／60　　住居址カマド１／40　　遺物　１／４

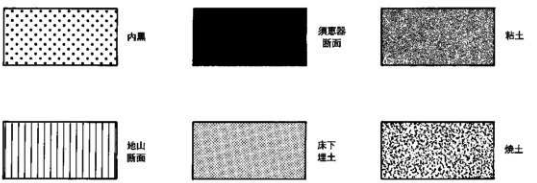
上記以外のものについては挿図中に明記した。

3　海抜標高は各遺構ごとに統一し、水糸標高を「標高」として記した。

4　土層・遺物胎土の色調は、1988年度版『新版　標準土色帖』に基づいて記した。

5　写真図版中の遺物の縮尺は概ね挿図と同じである。遺物番号と挿図番号は対応する。

6　挿図中におけるスクリーントーンの表現は、以下の通り。



目　次

巻頭図版
例言
凡例
目次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯と概要

第1節　調査の経緯と経過 …… (1)
第2節　調査体制 …… (2)
第3節　調査日誌 …… (2)
第4節　遺跡の自然・歴史的環境 …… (3)
第5節　基本層序 …… (4)
第6節　検出遺構・遺物の概要 …… (4)

第Ⅱ章　遺構と遺物

第1節　竪穴住居址 …… (5)
第2節　堀立柱建物址 …… (8)
第3節　土坑 …… (9)
第4節　ピット …… (10)
曽根城遺跡Ⅲ出土遺構一覧表
曽根城遺跡Ⅲ出土遺物観察表

第Ⅲ章　まとめ …… (13)

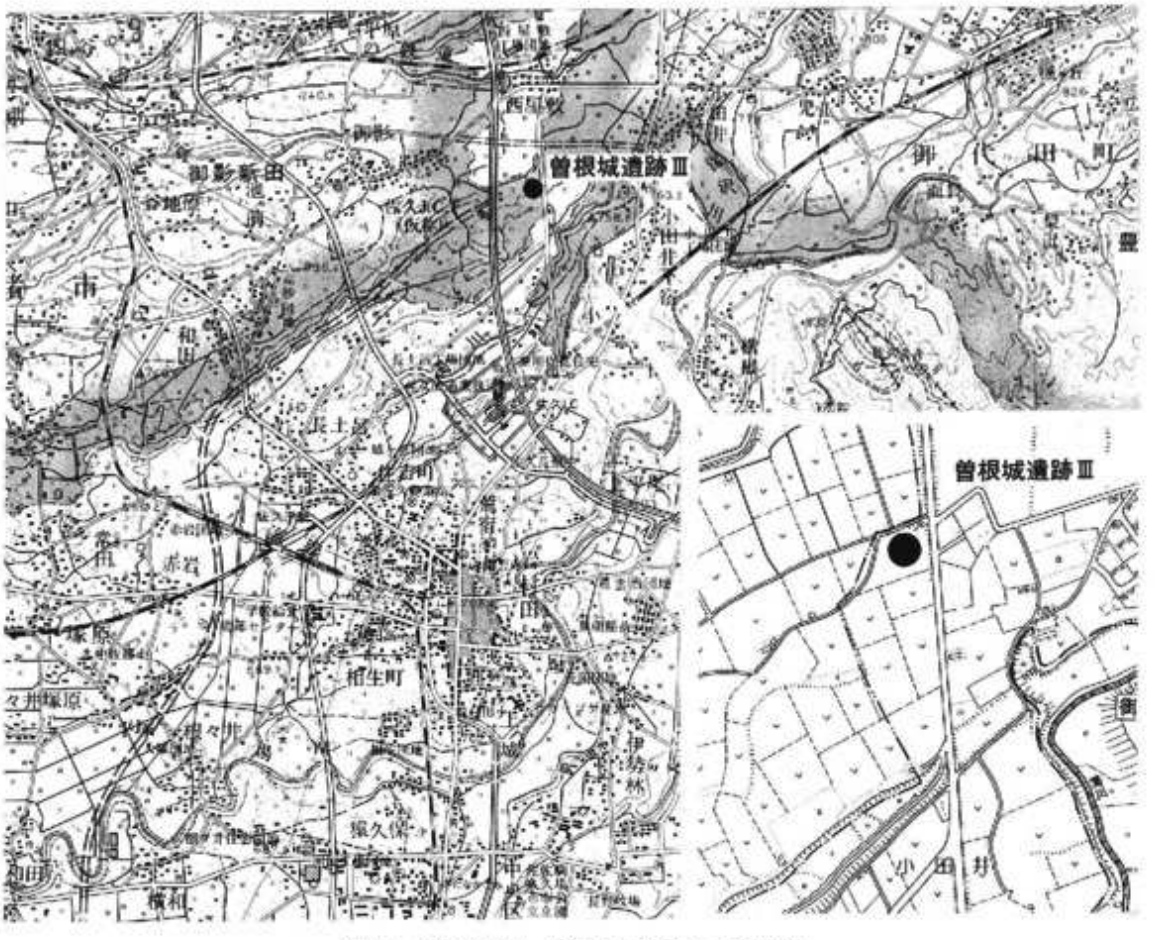
写真図版
奥付

第Ⅰ章　発掘調査の概要

第１節　調査の経緯と経過

曽根城遺跡は佐久市大字小田井地籍に存在する。浅間山麓に広がる浅間火山第一軽石流の厚く堆積する北佐久平に所在し、火山山麓特有の田切り地形の帯状低地が調査対象地の南北に見られる。周辺の田切りの帯状台地上には長土呂遺跡群・芝宮遺跡群が、また曽根城遺跡の存在する同台地上には周防畑遺跡群と言った遺跡群があり、佐久市においても屈指の遺跡密集地域となっている。本遺跡は田切りの帯状台地上に位置しその標高は755m内外を測った。

今回株式会社安井建設により宅地造成事業が計画され、試掘調査により計画対象地上において遺跡の存在が確認された。そして、保護協議の結果、遺跡の破壊を免れない道路部分周辺のみについて、佐久市教育委員会により記録保存を目的とした発掘調査が実施されることとなった。



第１図　曽根城遺跡Ⅲ　位置図（1：5,000・1：50,000）

第２節　調査体制

平成14年度

◎ 発掘調査委託者　　佐久市教育委員会
　教 育 長　　高柳　　勉

◎ 事　　務　　局
　教育次長　　黒沢　俊彦
　文化財課長　　嶋崎　節夫
　文化財係長　　森角　吉晴
　文化財係　　林　　幸彦・三石　宗一・須藤　隆司・小林　眞寿・冨沢　一明・上原　　学
　　山本　秀典・出澤　　力
　調査主任　　佐々木宗昭・森泉かよ子
　調査副主任　　堺　　益子
　調　査　員
　荒井ふみ子・碓氷　知子・小幡　弘子・柏木　貞男・柏木　三郎・柏木　義雄・佐藤　　剛
　田中　章雄・中島とも子・比田井久美子・細萱ミスズ・武者　幸彦

第３節　調査日誌

平成14年度

４月21日　重機による表土削平。
４月22日　発掘作業開始。機材搬入、テント設営。遺構検出、Ｈ１・２の調査開始。
４月23日　Ｈ３・Ｄ３・５調査。
４月24日　基準点の杭打ち作業。
４月25日　Ｄ１・Ｈ３周辺のピット調査。
４月30日　Ｄ４、Ｈ２周辺群調査、Ｈ２・３調査終了。
５月１日　Ｈ１周辺ピット群調査、Ｄ２調査。
５月７日　Ｈ１調査終了。
５月８日　全体写真撮影。機材を撤収し、現場での調査を終了する。

５月９日～８月30日
　室内整理作業。図面修正、遺物洗浄・注記・接合作業、遺物実測、報告書版下作成、原稿執筆などを行い、報告書を刊行する。

第4節　遺跡の自然・歴史的環境

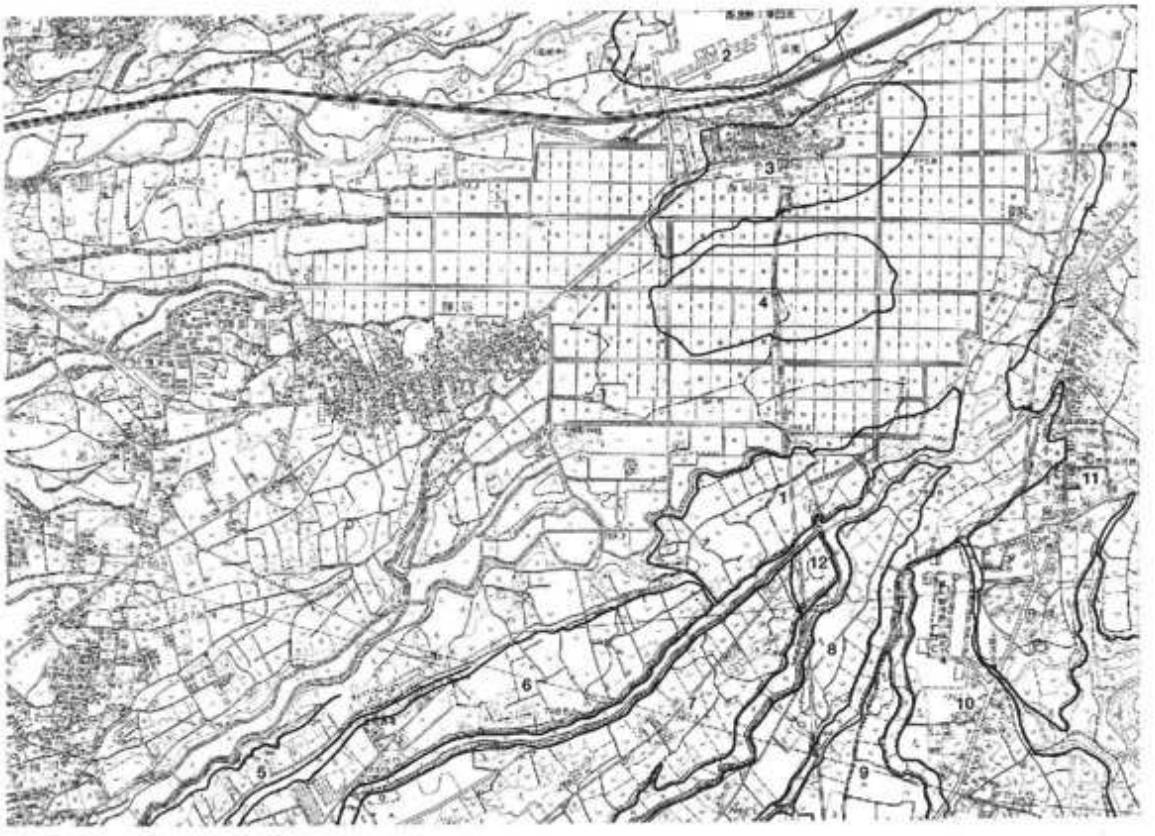
曽根城遺跡Ⅲは佐久市の北部、佐久市小田井地籍に所在する。佐久平の北方は浅間山南麓の末端部にあたり火山噴出物が厚く堆積しているが、その性格上水による各種作用を受けやすく小河川などによって容易に浸食され、結果大小さまざまな峡谷や「田切り地形」と呼ばれる火山山麓特有の帯状台地と低地からなる交互地形が形作られた。

本遺跡の周辺では田切りの台地上、またその低地に多くの遺跡の存在を知られている。上信越自動車道、長野新幹線、流通業務団地造成事業、区画整理事業といった大規模な開発が相次ぎ当地の風景は大きく様変わりしたが、それらに伴う大規模な発掘調査によって、当地周辺に現在の活況にも劣らない佐久有数の大集落の存在することが明らかとなっている。

田切りに挟まれた台地上に展開する遺跡群としては、長土呂遺跡群・芝宮遺跡群・周防畑遺跡群・近津遺跡群などがある。これらを中心にして本遺跡周辺の遺跡分布を以下に示した。

田切り上に展開する遺跡として特に顕著なのは平成元年から7年にかけて発掘調査が行われた長土呂遺跡群聖原遺跡Ⅰ・Ⅲ～Ⅵ・Ⅷ・Ⅸである。97,000㎡の面積から古墳～平安時代の住居址975軒、掘立柱建物址860軒等という大集落群が確認された。

曽根城遺跡では縄文時代から中世にかけての遺跡・遺跡群が存在している。過去に曽根城遺跡Ⅰ・Ⅱの発掘調査が行われており、Ⅰでは奈良時代住居址1軒、Ⅱでは中世から近世の溝状遺構・柱穴・奈良～平安時代のものと思われる大規模な洪水跡が確認されている。



第2図　曽根城遺跡Ⅲ　周辺遺跡分布図（1：20,000）

No.	遺跡名	所在地	時代	備考
1	**曽根城遺跡**	**小田井字曽根城**	**縄文～平安**	**今回調査**・曽根城遺跡Ⅰ・Ⅱ（H4・9）
2	下前田原遺跡群	小田井字後原他	奈良・平安～中世	後原遺跡（S57）
3	前田遺跡群	小田井字前田他	古墳～中世	前田遺跡（S60～62・H12）
4	鋳師屋遺跡群	小田井字鋳師屋	古墳～中世	鋳師屋遺跡（S59・61）
5	近津遺跡群	長土呂字本宮他	弥生～平安	北近津遺跡（S46）、上宮原遺跡（H2）
6	周防畑遺跡群	長土呂字周防畑他	縄文～平安 縄文～平安	周防畑遺跡（S54・55）、若宮遺跡（S58・H7） 南近津遺跡（H9）、辻の前・中仲田遺跡（H11・12）
7	芝宮遺跡群	長土呂字北上中原他	弥生～中世	芝宮遺跡（S54・55・57）、下芝宮遺跡（S62・63・H1） 南上下中原遺跡（S63・H5）、高山遺跡（H5・7） 上高山遺跡（H1・3）、上芝宮遺跡（H4～9） 下曽根遺跡（H4～12）
8	長土呂遺跡群	長土呂字隠し他	弥生～平安	聖原遺跡（H1～7）、下聖端遺跡（S63・H1・4・11） 上聖端遺跡（S63）、上大林遺跡（S63）、聖石遺跡（H13）
9	栗毛坂遺跡群	小田井字笹沢他	弥生～平安	中曽根遺跡（H1）、上曽根遺跡（H2） 西曽根遺跡（H3・5・12）、前藤部遺跡（H5・8・9）
10	跡坂遺跡群	小田井字蛟月他	弥生～平安	跡坂遺跡（H9）
11	中金井遺跡群	小田井字西浦他	弥生～平安	上金井遺跡（S62）、中金井遺跡（S62・H1）
12	曽根城跡	小田井字曽根城	中世	

第Ⅰ表　曽根城遺跡Ⅲ　周辺遺跡一覧表

第5節　基本層序

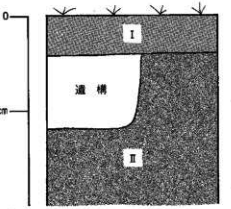
本遺跡は調査時には近年の削平により表土が失われており、すでに遺構確認面が露出している状態であった。調査対象地西側に表土からの様相を確認できる部分が残されていたのでそこより基本層序を抽出する。

遺構確認面は耕作土の下、浅間山第一軽石流（P1）である。

模式図土説

Ⅰ層　耕作土

Ⅱ層　浅間山第一軽石流（P1）



第3図　曽根城遺跡Ⅲ　土層模式図

第6節　検出遺構・遺物の概要

◎遺　構

竪穴住居址（平安時代）	3軒
堀立柱建物址	1軒
土坑	3基
ピット	85基

◎遺　物

土師器（坏・甕）・須恵器（坏・高台付坏・甕）・石製品（砥石）・鉄製品（鉄鏃・刀子・釘）

第Ⅱ章　遺構と遺物

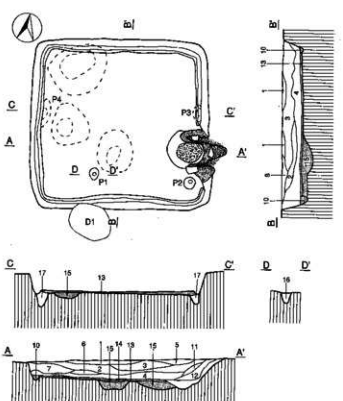
第１節　竪穴住居址

１）Ｈ１号竪穴住居址（第４・５図、図版一・二・四）

本住居址は調査区う・え－２・３グリッドに位置する。住居址南壁でＤ１号土坑と、西壁でＰ３・５・６号ピットと重複し、新旧関係ではＤ１号土坑の方が新しくピットはいずれも住居址によって切られている。規模は北壁長335cm、南壁長342cm、東壁長324cm、西壁長338cmで方形を呈する。床面積は10.5m²、カマドを基準とした長軸方位はＮ－79°－Ｅで、検出面からの壁高は北壁で33cmを測った。ピットは全てで４基が確認されたが、柱穴と思われるものは堀り方で周溝の下から確認されたＰ３・４である。覆土は自然堆積。床面はよく硬化しており、堀り方は部分的に深く掘り込む部分が認められる。周囲には周溝を認めた。

カマドは住居址南東コーナー付近に構築され、規模は焚き口から煙道までの長さ122cm、幅94cmを測る。床を堀り込み、芯材となる礫を据え粘土を被覆して袖部を構築している。また煙道部に火熱を受けた粘土が残っており煙道にも粘土が用いられていることが分かる。煙道部で確認される礫は天井部の構築材か。

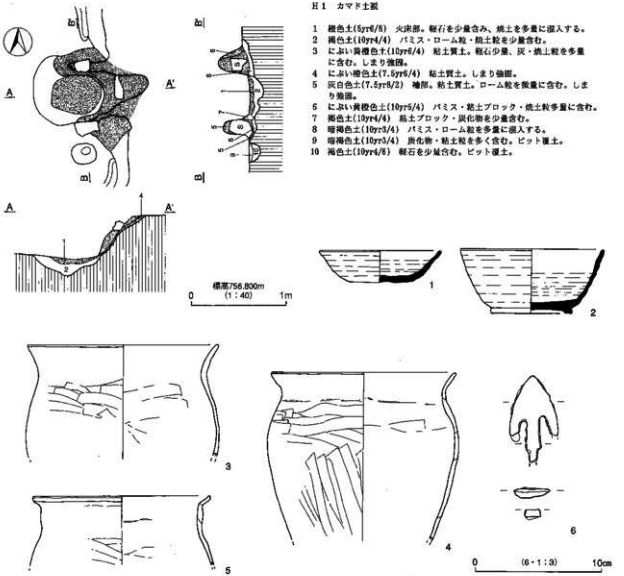
遺物は６点を図示する。図示した物の他には破片資料として土師器坏・須恵器甕、須恵器蓋などが見られた。１は須恵器坏。底部は回転糸切り痕を残す。２は須恵器高台付坏底部は糸切り後に高台を貼り付ける。３～５は土師器甕。４・５は口縁が「コ」の字型に外反する薄手の甕で所謂「武蔵甕」。３は口縁の外反が緩やか。ともに口縁にヨコナデ、体部外面にはヘラケズリ、内面にナデを施し、４・５には輪積み痕が残る。６は鉄製品で鉄鏃。腸抉で茎には棘箆が見られ、それより下の茎部は欠損。



Ｈ１　土師

1　褐色土(10yr4/4)　パミス・ローム粒・軽石を多量に含む。粘性ややあり、しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10yr4/3)　ローム粒を多量、パミス・軽石を少量含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
3　黒褐色土(10yr2/3)　パミス・軽石を多量に含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
4　暗褐色土(10yr3/3)　パミス・ローム粒少量、φ１cm以上の軽石を多量に含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
5　暗褐色土(10yr3/3)　パミス・粘土ブロック含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
6　褐色土(10yr4/4)　パミス・軽石含む、ロームブロック多量に含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
7　暗褐色土(10yr3/4)　パミス・ローム粒・軽石多量に含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
8　黒褐色土(10yr2/3)　パミス・軽石少量含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
9　灰白色(5y8/1)　灰の堆積層。
10　暗褐色土(10yr3/4)　周溝部。パミスを含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
11　暗褐色土(10yr3/4)　パミス・ローム粒多く、粘土ブロック少量、炭化物微量含む。粘性・しまりややあり。
12　暗褐色土(10yr3/3)　パミス少量、粘土ブロック・炭化物を含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
13　にぶい黄褐色土(10yr7/4)　貼床部。パミス・軽石を多く含む。しまり強固。
14　浅黄橙色土(10yr8/3)　軽石多く含む。しまり強い。
15　にぶい黄褐色土(10yr6/4)　軽石、鉄分多に含む。しまりあり。
16　褐色土(10yr4/6)　ピット覆土。パミス含み、ロームブロック多く含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
17　黒褐色土(10yr2/3)　パミス多量に含む。しまり、粘性あまりなし。ピット覆土。

第４図　Ｈ１号住居址　実測図



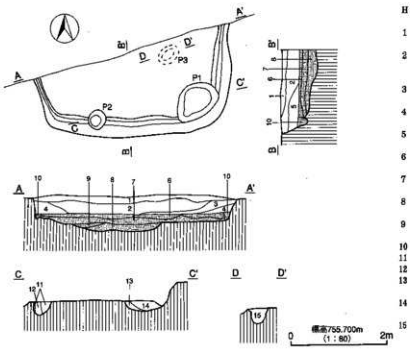
第5図　H1号住居址　カマド実測図　出土遺物

2）H2号竪穴住居址（第6図・図版二・四）

本住居址は調査区こ・さ－5グリッドに位置する。住居址の北側は調査区外のため未調査。規模は南壁長347㎝、東壁長208㎝（検出部）、西壁長99㎝（検出部）を測り得るのみで、住居址の形態は明らかではない。東壁を基準とした軸方位はN－1°－Eでほぼ真北を示す。検出面からの壁高は南壁で37㎝を測った。ピットは3基を確認し、P3は床下で検出される。覆土は自然堆積、周囲には周溝を認めた。

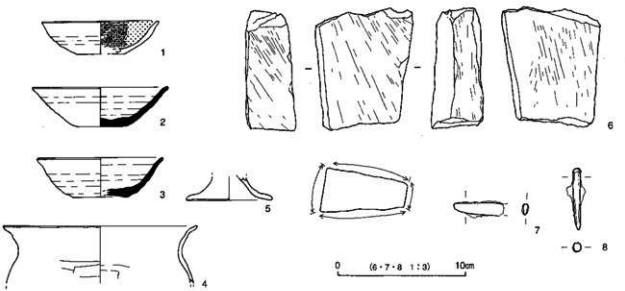
遺物は8点を図示する。図示した物の他には土師器碗、須恵器壺などがある。1は土師器坏。底部は回転糸切り、内面に放射状のミガキと黒色処理が施される。2・3は須恵器坏。ともに底部には回転糸切り痕が認められ、2には内外面に火熱の痕跡が残り3は焼成が甘い。4は武蔵甕。口縁部はヨコナデ、体部外面はヘラケズリ、内面にはナデが施される。5は土師器だが、器種は判然としない。内外面ともにヨコナデ、端部がラッパ状に広がり、おそらく何らかの器種の脚部に当たる部位のものであると思われる。6は石製品で砥石。7・8は鉄製品。7は刀子。8は釘。いずれも欠損が激しく、一部分のみの出土。そのほかに、破片資料で墨書土器も認めている。

墨書土器は、墨書が文字の判別は困難で何が書かれているかは明らかではない。外観写真とともに、赤外線カメラでの映像も図版に示した。



H2 上層

1 暗褐色土(10yr3/3) パミス・軽石を含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
2 暗褐色土(10yr3/4) パミス・ロームブロック・軽石を多量に含み、黒褐色土ブロックを含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
3 暗褐色土(10yr3/3) パミスを少量含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
4 黒褐色土(10yr2/2) ロームブロックを微量に含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
5 黒褐色土(10yr2/3) パミス・ロームブロック少量含む。粘性ややあり、しまりあまりなし。
6 黄褐色土(10yr5/6) 貼床部。パミス・黒色土ブロックを多く含む。しまり強固。
7 褐色土(10yr4/4) パミス・ロームブロック・軽石を多量に含む。粘性ややあり、しまりあり。
8 褐色土(10yr4/6) パミス・ロームブロックを多く含む。粘性ややあり、しまりあり。
9 黄褐色土(10yr6/8) パミス多く含む。黒色土ブロックを多量に混入する。
10 暗褐色土(10yr3/3) 周溝部。パミスを含む。
11 褐色土(10yr4/4) ローム・パミス含む。ピット覆土。
12 暗褐色土(10yr3/4) 柱痕。パミス含む。
13 暗褐色土(10yr3/4) ロームブロックを多く含む。ピット覆土。
14 暗褐色土(10yr3/3) パミス・軽石・ロームブロックを多く含む。ピット覆土。
15 暗褐色土(10yr3/3) パミス・軽石・ロームブロックを多量に含む。しまり・粘性なし。堀り方ピット覆土。

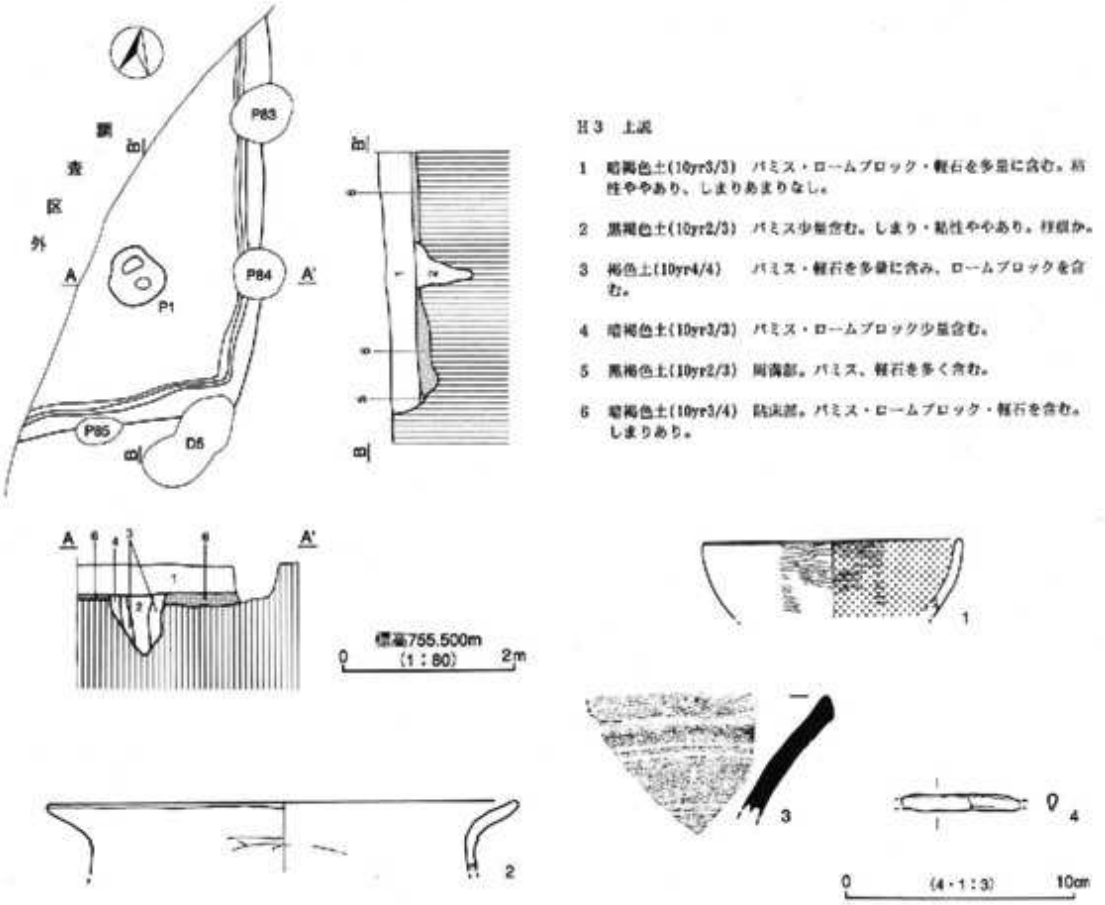


第6図 H2号住居址 実測図 出土遺物

3）H3号竪穴住居址（第7図・図版二・四）

本住居址は調査区すぢ・せ－9・10グリッドに位置する。住居址の北西部分は調査区外のため未調査。住居址南壁でD5号土坑とP85号ピット、東壁でP83・84号ピットとそれぞれ重複し、新旧関係ではいずれも住居址の方が古い。規模は南壁長258cm（検出部）、東壁長454cm（検出部）を測り得るのみで、住居址の形態は明らかではない。東壁を基準とした軸方位はN－9°－Eで真北からやや東を示す。検出面からの壁高は南壁で34cmを測った。ピットは1基を確認し、柱痕を認めること、その規模、検出位置などから主柱穴のひとつであると思われる。覆土は自然堆積、周囲には周溝を認めた。

遺物は4点を図示する。1は土師器坏。内外面にミガキが見られ、内面に黒色処理が施される。2は土師器甕。口縁部のみの出土で、口縁は胴部に対してやや大きな角度を持って外反する。口縁にヨコナデ、体部外面にはヘラケズリ、内面にはナデが施される。3は須恵器甕。口縁部のみ破片での出土。2条の沈線で区画された帯状の部分に波状文が施される。4は鉄製品で刀子の破片である。

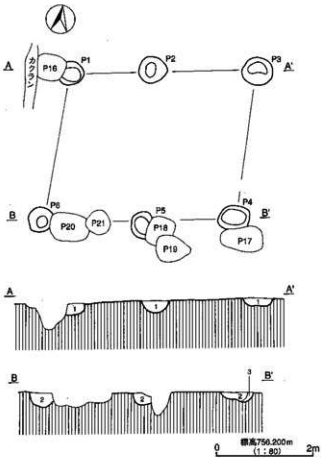


第7図　H3号住居址　実測図　出土遺物

第2節　堀立柱建物址

1）F1号堀立柱建物址（第8図・図版三・四）

調査区お・か－2・3グリッドにおいて確認された。P14～18・20号ピットが重複し、新旧関係ではP15は本遺構の方が新しく、P14・16～18・20はピットの方が古い。柱穴の規模は、北西コーナー部分のピットをP1として時計回りにナンバーを付けて、P1で径49×深さ22、P258×25、P364×18、P464×21、P551×26、P650×29である。1間×2間の側柱式であると思われ、規模は桁行461cm、梁間362cmを測った。長軸方位はN－82°－Eを示す。柱痕などは確認されない。出土遺物は皆無だった。



F1 土器

1 黒褐色土(10yr2/2) パミス・軽石を微量に含む。

2 黒褐色土(10yr2/3) パミス・軽石を微量に含み、暗褐色土ブロックを混入する。

3 暗褐色土(10yr3/3) パミス微量に含む。

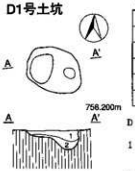
第8図 F1号堀立柱建物址 実測図

第3節 土坑 (第9図、図版三)

曽根城遺跡Ⅲでは土坑が5基確認された。それぞれの規模、形態などについては図中の付表を参考にされたい。他の遺構との重複関係では、D1号土坑がH1号竪穴住居址の南壁で、D5号土坑がH3号竪穴住居址南壁でそれぞれ重複する。新旧関係においてはどちらとも住居址より土坑の方が新しく、土坑が住居址を切る形である。

遺物はD2・3・4・5号土坑でそれぞれ確認された。D4号土坑において出土した須恵器の高台付坏を図示する。そのほかの遺物については全て破片資料での出土であり、図示できるものはない。D2号土坑では土師器甕、D3では土師器の坏・甕、D4では図示した物の他に土師器甕・D5は土師器甕・須恵器が出土している。全て破片での出土であるから、正確な所産時期は不明。D4号土坑出土の高台付坏は佐久地方においては8世紀初頭～9世紀前半にかけて見られる器種であるが、共伴する土師器片などとも勘案するとおそらく8世紀後葉～9世紀前半のものであると思われる。

D1号土坑



D１号土坑

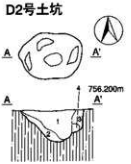
検出位置	え－３グリッド
平面形態	楕　円　形
長軸長	９５cm
短軸長	７０cm
深　さ	４３cm
長軸方位	Ｎ－75°－Ｗ

D１　土層

1　黒褐色土(10yr2/3)　パミス・ロームブロック・軽石を多量に含む。

2　黒褐色土(10yr3/2)　パミスを微量に含む。

D2号土坑



D２　土層

1　暗褐色土(10yr3/4)　パミス・軽石を含み、ロームブロックを多量に混入する。

2　暗褐色土(10yr3/3)　ロームブロック・軽石を含む。

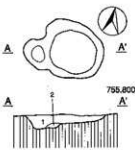
3　黒褐色土(10yr2/3)　パミス・ロームブロックを微量に含む。

4　褐色土(10yr4/6)　地山ローム層。

D２号土坑

検出位置	え－３グリッド
平面形態	楕　円　形
長軸長	１００cm
短軸長	７４cm
深　さ	６５cm
長軸方位	Ｎ－84°－Ｅ

D3号土坑



D３号土坑

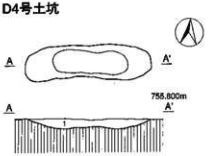
検出位置	け－４グリッド
平面形態	隅丸方形
長軸長	１２５cm
短軸長	９２cm
深　さ	２２cm
長軸方位	Ｎ－71°－Ｅ

D３　土層

1　黒褐色土(10yr2/3)　パミスを微量、ローム粒・軽石を少量含む。

2　暗褐色土(10yr3/4)　パミスを微量、ロームブロックを含む。

D4号土坑



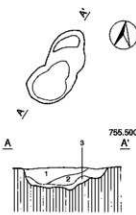
D４　土層

1　暗褐色土(10yr3/3)　パミス・軽石を微量含み、灰を少量混入する。

D４号土坑

検出位置	け－５グリッド
平面形態	隅丸長方形
長軸長	１９８cm
短軸長	５７cm
深　さ	３１cm
長軸方位	Ｎ－78°－Ｅ

D5号土坑



D５号土坑

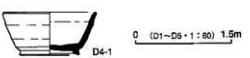
検出位置	す・せ－10グリッド
平面形態	楕　円　形
長軸長	１３１cm
短軸長	６３cm
深　さ	３４cm
長軸方位	Ｎ－35°－Ｅ

D５　土層

1　暗褐色土(10yr3/3)　パミス・粘性の強いロームブロックを多量に混入する。粘性・しまりあり。

2　黒褐色土(10yr2/3)　パミス・粘性の強いロームブロックを含む。

3　褐色土(10yr4/4)　粘性の強いロームブロックを多量に混入する。粘性強い。しまりあり。



第９図　Ｄ１～Ｄ５号土坑　実測図

第４節　ピット

曽根城遺跡Ⅲでは、合計して85基のピットが確認された。Ｈ１号竪穴住居址の西側と、Ｈ２号竪穴住居址の周辺に集中して認められる。出土した遺物に図化できるものはなく、規模などについては一覧表に示した。

曽根城遺跡Ⅲ　出土遺構一覧表

曽根城遺跡Ⅲ　住居址一覧表

遺構名	形態	規模（m²・cm）						主軸方位	カマド	柱穴	床の状態	備考
		面積	北壁	南壁	東壁	西壁	深さ					
H 1	方形	10.5	335	342	324	338	33	N−79°−E	南東コーナー	2	全体的に硬質	重複P 3，5，6→H 1→D 1（H→新）
H 2	（方形）	−	−	347	（208）	（99）	37	N−1°−E	−	−	全体的に硬質	
H 3	−	−	−	（258）	（454）	−	34	N−9°−E	−	（1）	全体的に硬質	重複H 3→D 5，P 83～85

曽根城遺跡Ⅲ　堀立柱建物址一覧表

遺構名	様式	規模				柱穴規模（cm）		長軸方位
		桁行×梁間（間）	桁行×梁間（cm）	桁行柱間（cm）	梁間柱間（cm）	径	深さ	
F 1	側柱式	2×1	461×362	116～199	152～158	16.7	64～49	N−82°−E

曽根城遺跡Ⅲ　土杭一覧表

遺構名	検出位置	平面形態	規模（cm）			長軸方位	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
D 1	え−3	楕円形	95	70	43	N−75°−W	土師器坏・礫破片出土。
D 2	え−3	楕円形	100	74	65	N−84°−E	土師器甕・須恵器蓋・坏破片出土。
D 3	け−5	隅丸方形	125	92	22	N−71°−E	
D 4	け−4	隅丸長方形	198	57	31	N−78°−E	土師器甕破片、須恵器高台付坏出土。
D 5	す−10	楕円形	131	63	34	N−35°−E	土師器甕破片出土。

曽根城遺跡Ⅲ　ピット一覧表

No.	検出位置（グリッド）	規模（cm）		覆土	備考
		径	深さ		
1	う−3	55	43	暗褐色土（10yr3/3）　パミス含み、軟石多量に含む。	
2	う・え−3	60	14	褐色土（10yr4/4）　パミス含み、軽石少量に含む。	
3	え−2	50	14	暗褐色土（10yr3/3）　パミス含み、ローム・ブロック少量含む。	H 1と重複。
4	え−3	32	7	黒褐色土（10yr2/3）　パミス・軽石含む。	
5	え−3	−	30	褐色土（10yr4/3）　パミス・軽石少量含む。	H 1と重複。
6	え−3	60	13	黒褐色土（10yr2/3）　パミス・軽石多量に含む。	H 1と重複。
7	え−3	80×47	49	暗褐色土（10yr3/3）　パミス・ローム・ブロック・軽石多量に含む。	
8	え・お−3	55	50	黒褐色土（10yr2/3）　パミス微量に含む。	柱痕あり（10yr3/4）。土師器甕高台付坏出土。
9	え−4	33	58	黒褐色土（10yr2/3）　パミス・ローム・ブロック・軽石含む。	
10	え・お−4	55	54	黒褐色土（10yr2/3）　パミス・ローム・ブロック・軽石含む。	土師器甕・須恵器坏破片出土。
11	お−4	54	53	黒褐色土（10yr2/3）　パミス・ローム・ブロック・軽石含む。	
12	お−4	80×62	18	褐色土（10yr4/3）　パミス少量含む。	
13	お−4	42	41	暗褐色土（10yr3/3）　パミス・ローム・ブロック含む。	
14	お−2・3	78×58	27	黒褐色土（10yr2/3）　パミス微量に含む。	F 1と重複。
15	お−2・3	48	30	暗褐色土（10yr3/4）　パミス・ローム・ブロック・軽石多く含む。	F 1と重複。
16	か−2・3	55	54	黒褐色土（10yr2/3）　パミス微量に含む。	土師器甕破片出土。F 1と重複。
17	お−3	89×47	51	暗褐色土（10yr3/4）　パミス・軽石多量に含む。	土師器破片・須恵器坏破片出土。F 1と重複。
18	お−3	96×51	51	暗褐色土（10yr3/4）　パミス・軽石多量に含む。	須恵器坏・甕破片出土。F 1と重複。
19	お−3	73×57	34	暗褐色土（10yr3/4）　パミス・軽石含む。	土師器甕・須恵器坏破片出土。
20	お・か−3	75×61	28	暗褐色土（10yr3/3）　パミス・ローム・ブロック含む。	F 1と重複。
21	お−3	48	20	暗褐色土（10yr3/3）　パミス・軽石含む。	
22	お−3	32	11	黒褐色土（10yr2/3）　パミス微量に含む。	
23	お−3	33	16	暗褐色土（10yr3/3）　パミス少量含む。	
24	か−3	40	20	暗褐色土（10yr3/3）　パミス・軽石少量含む。	
25	か−3	42	18	黒褐色土（10yr2/2）　パミス微量に含む。	
26	か−3	50	29	暗褐色土（10yr3/3）　パミス・ローム・ブロック多量に含む。	
27	き−3	30	32	黒褐色土（10yr2/3）　パミス微量に含む。	
28	き−3	41	33	暗褐色土（10yr3/3）　パミス少量含む。	
29	き−3	28	15	暗褐色土（10yr3/4）　パミス・軽石少量含む。	
30	き−3・4	53×50	43	黒褐色土（10yr2/3）　パミス微量に含む。	
31	か−4	50	30	暗褐色土（10yr3/4）　ローム・軽石多量に混入。	
32	か−4	38	34	黒褐色土（10yr2/3）　パミス・軽石多量に含む。	
33	か−4	46×29	12	黒褐色土（10yr2/3）　パミス多量、ローム・ブロック含む。	
34	お・か−4	60	40	黒褐色土（10yr2/3）　パミス多量に含む。	
35	き−4	37	10	暗褐色土（10yr3/4）　パミス・軽石少量含む。	
36	か−4	35	22	暗褐色土（10yr3/4）　ローム・軽石多量に混入。	
37	き−5	50×45	20	黒褐色土（10yr2/3）　パミス微量に含む。	
38	く−4	28	25	暗褐色土（10yr3/3）　パミス微量に含む。	土師器・須恵器甕破片出土。
39	く−5	40	29	黒褐色土（10yr2/3）　パミス・ローム・ブロック・軽石含む。	
40	く・け−4	60×48	35	暗褐色土（10yr3/3）　パミス微量に含む。	

No.	検出位置(グリッド)	規模(cm) 径	深さ	覆土	備考
41	け－4	53	19	黒褐色土(10yr2/3) パミス微量に含む。	
42	け－5	28	15	暗褐色土(10yr3/3) 軽石を少量含む。	
43	け－5	29	16	黒褐色土(10yr2/3) 軽石を多量に含む。	
44	け－6	66×49	10	暗褐色土(10yr3/4) 軽石を多量に含む。	
45	け・こ－6	43	22	黒褐色土(10yr2/3) パミス微量、軽石を多量に含む。	
46	こ－3	46×26	19	褐色土(10yr4/4) 軽石多量に含む。	
47	こ－6	24	9	暗褐色土(10yr3/3) パミス・ローム・ブロック・軽石多量に含む。	
48	こ－6	58	42	暗褐色土(10yr3/3) 軽石を少量含む。	
49	こ－6	73	40	黒褐色土(10yr2/3) 軽石を多量に含む。	土師器壺出土。
50	こ－6	49	34	暗褐色土(10yr3/3) パミス・ローム・ブロック・軽石多量に含む。	土師器破片出土。
51	こ－6	25	18	黒褐色土(10yr2/3) パミス微量に含む。	
52	こ－6	37	33	黒褐色土(10yr2/3) パミス微量に含む。	土師器破片出土。
53	こ－6	48	18	黒褐色土(10yr2/3) パミス微量に含む。	
54	こ－6	60×47	48	黒褐色土(10yr2/3) パミス・軽石を含む。	土師器破片出土。
55	こ－6	40	14	黒褐色土(10yr2/2) パミス・ローム・ブロック・軽石を少量含む。	
56	こ－6	60	14	暗褐色土(10yr3/3) パミス・軽石を含む。	
57	こ－6	38	35	黒褐色土(10yr2/2) パミス微量、ローム・ブロック少量を含む。	
58	さ－6	75	47	黒褐色土(10yr2/3) パミス・ローム・ブロック・軽石を多量に含む。	
59	さ－6	28	11	黒褐色土(10yr2/2) パミス・軽石を少量含む。	
60	さ－6	69	26	黒褐色土(10yr2/3) パミス・ローム含む。	
61	さ－6	57	44	暗褐色土(10yr3/4) パミス・ローム・ブロック多量に含む。	柱痕あり(10yr3/3)。土師器甕・須恵器破片出土。
62	さ－6	47	47	黒褐色土(10yr2/3) パミスを少量含む。	
63	さ－6	75×60	27	黒褐色土(10yr2/3) パミスを少量含む。	
64	さ－6	64	22	暗褐色土(10yr3/3) パミスを含む。	
65	さ－6	48	32	暗褐色土(10yr3/4) パミスを含む。	
66	し－5	72×55	21	黒褐色土(10yr2/3) パミスを微量含む。	
67	し－5・6	54	35	黒褐色土(10yr2/3) パミス・ローム・ブロックを含む。	土師器破片出土。
68	さ－6	53	49	黒褐色土(10yr2/3) パミス・ローム・ブロックを微量含む。	土師器破片出土。
69	さ－6	78×54	29	暗褐色土(10yr3/3) パミス・ローム・ブロックを含む。	土師器甕破片出土。
70	し－6	62	65	暗褐色土(10yr3/4) パミス・ローム・ブロック多量に含む。	土師器・須恵器甕破片出土。
71	し－6	40	26	黒褐色土(10yr2/3) パミスを微量含む。	
72	さ－6	80×37	40	黒褐色土(10yr2/2) パミス微量、ローム・ブロック少量含む。	し師器甕破片出土。
73	し－6	67	72	黒褐色土(10yr2/3) パミスを微量含む。	土師器破片出土。
74	し－6	86	13	暗褐色土(10yr3/3) パミス・軽石少量含む。	
75	さ－7	38	35	黒褐色土(10yr2/3) ローム・ブロック少量を含む。	土師器坏破片出土。
76	さ－7	45	25	黒褐色土(10yr2/3) ローム・ブロック少量を含む。	土師器甕破片出土。
77	し－7	79×54	59	黒褐色土(10yr2/3) パミス・ローム・ブロック少量を含む。	土師器甕破片出土。
78	し－7	59	23	暗褐色土(10yr3/3) パミス・ローム・ブロック・軽石を含む。	土師器甕破片出土。
79	し－6	36	28	暗褐色土(10yr3/3) パミス・軽石を少量含む。	
80	し－7	55	21	暗褐色土(10yr3/3) パミス・軽石を少量含む。	
81	し－7	34	30	黒褐色土(10yr2/2) パミスを微量に含む。	
82	し－7	64	30	黒褐色土(10yr2/3) ローム・ブロック・軽石を含む。	土師器坏・甕破片出土。H３と重複。
83	す－9	50×70	30	暗褐色土(10yr3/4) パミス・ローム・ブロック・軽石を多量に含む。	土師器坏・甕破片出土。H３と重複。
84	す－10	60×48	38	暗褐色土(10yr3/3) パミス・ローム・ブロック・軽石を多量に含む。	土師器破片出土。H３と重複。
85	せ－10	55	25	黒褐色土(10yr2/3) パミスを少量含む。	土師器破片出土。H３と重複。

曽根城遺跡Ⅲ　出土遺物観察表

遺構名	No.	器種	器形	計測値(cm・g) 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量	調整・底形 外面	内面	備考
H１	1	須恵器	杯	13.0	5.7	3.1		底部右回転糸切り		内外面に火襷。
	2		高台付杯	15.2	8.2	6.8		底部粗転糸切り後高台付		
	3	土師器	壺	19.8	－	(17.7)		口縁ヨコナデ・体部ヘラケズリ	体部ヘラナデ	輪積痕残る。
	4		甕	20.0	－	(11.8)		口縁ヨコナデ・体部ヘラケズリ	体部ヘラナデ	
	5		甕	18.6	－	(7.3)		口縁ヨコナデ・体部ヘラケズリ	体部ヘラナデ	輪積痕残る。
	6	鉄製品	鉄鎌	(6.8)	3.9	0.8	22.5			
H２	1	土師器	杯	12.2	5.0	3.4		底部右回転糸切り	ミガキ・黒色処理	
	2	須恵器	杯	14.2	5.0	4.1		底部右回転糸切り		
	4		杯	13.2	5.8	4.1		底部右回転糸切り		焼成甘い。
	4	土師器	甕	20.2	－	(6.0)		口縁ヨコナデ・体部ヘラケズリ	体部ヘラナデ	
	5		不明	－	9.0	(2.3)				脚部。
	6	石製品	砥石	9.2	8.5	3.5	389.56			
	7	鉄製品	刀子	(3.9)	1.0	0.5	5.02			
	8		釘	(4.8)	0.6	0.6	4.40			
	9	土師器	坏(墨書)	－	－	－				破片資料。黒書を認める。
H３	1	土師器	杯	15.2	－	(4.5)		ミガキ	ミガキ・黒色処理	
	2		甕	27.6	－	(4.0)		口縁ヨコナデ・体部ヘラケズリ		
	3	須恵器	壺	－	－	－				
	4	鉄製品	刀子	(5.1)	0.7	0.4	3.40			
D４	1	須恵器	高台付杯	9.8	6.0	4.5		底部回転糸切り後高台付		

第Ⅲ章　まとめ

今回調査された遺構について、その出土土器から各遺構の所産時期を明らかにしたいと思う。

Ｈ１号住居址では、須恵器坏、高台付坏、土師器甕などが確認され、須恵器坏は底部に回転糸切り痕が残るもの、高台付坏は坏部がまっすぐに立ち上がり身が深い。土師器甕は薄手の甕で、出土する口縁部は緩やかにくの字に外反するものとコの字に外反するものが見られる。これらかＨ１号住居址は８世紀後葉の所産と考えられる。

Ｈ２号住居址からは須恵器坏、土師器坏・碗・甕などが出土した。須恵器坏は口縁部が外反し、底部に糸切り痕を残す９世紀前半に主体となる器形の特徴を持つ。土師器椀や、はっきりとしたコの字口縁を持つ武蔵甕の存在、ロクロ甕の不在などからも９世紀前半の所産と想定する。

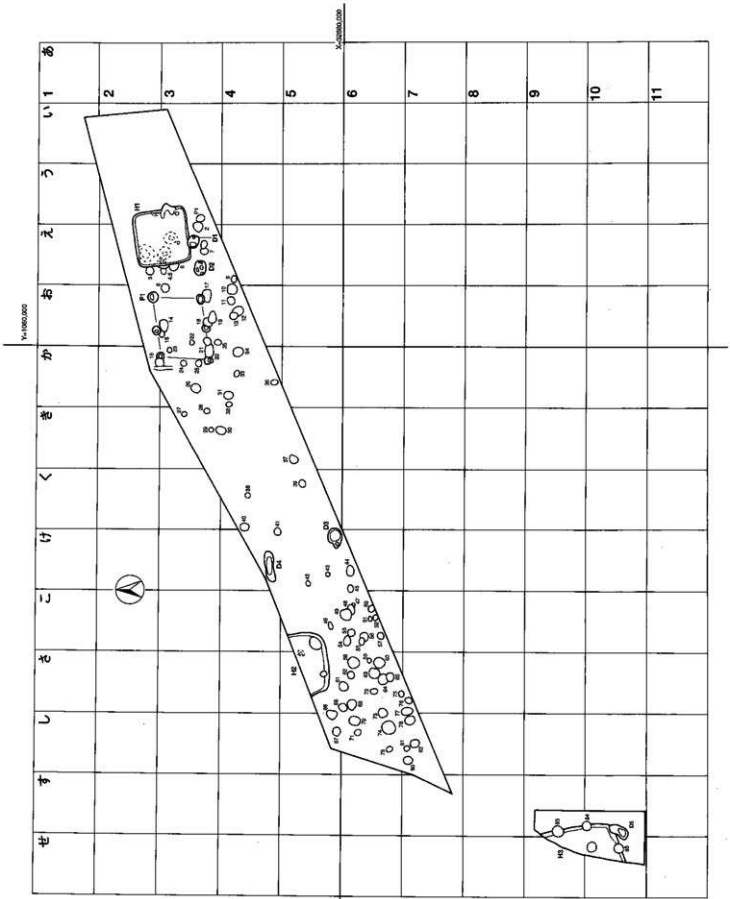
Ｈ３号住居址はくの字に大きく外反する厚手の土師器甕の破片、薄手の土師器甕破片が共伴する。土師器坏は口縁部が内反し、内外面にミガキを認めるものが出土している。本住居址は８世紀前葉の所産と考えられる。

土坑については、Ｄ２・３・５号土坑の出土遺物は破片資料のみのため正確な時期を知り得ることは出来ない。ただし、各土坑において認められる土師器甕は、胴部が比較的厚手で、Ｈ１・２号住居址から出土する薄手の土師器甕より古式の特徴を示す。Ｄ４号土坑はＨ１・２号住居址がそれぞれ存在したと思われる８世紀後葉から９世紀前半に当たるものである。

ピットは、Ｈ１号住居址に切られるピットが見られる様に、Ｈ１・２号住居址に先行するピット群が認められる。ピットからの出土遺物は全て破片資料のためそれによって時期を断定することは出来ないが、P54・68・72・73・75・78・78・82と言ったピットから出土した土器はその他のピットや、Ｈ１・２から出土したものと比してより時期的に古い土器の特徴を持っていた。従って、ピット群にはＨ１・２に先行して存在したものと、それよりも時期的に新しいもの、最低２グループが存在することになる。

参考文献

１９８９	『根岸遺跡』	御代田町教育委員会
１９８９	『前田遺跡』	佐久市教育委員会
１９９８	『曽根城遺跡Ⅱ』	佐久市教育委員会
１９９９	『西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ』	佐久市教育委員会
２００１	『上芝宮遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ　下曽根遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ』	佐久市教育委員会



第10図　曽根城遺跡Ⅲ　全体図（1：250）

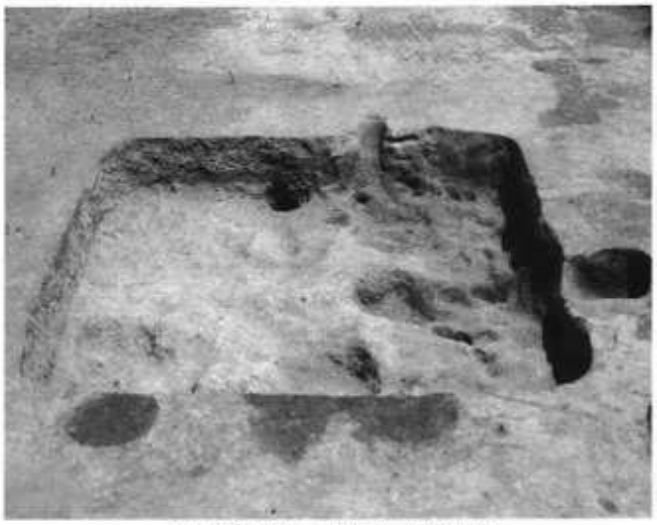
調査区東側
（南東より）

調査区西側
（北東より）

Ｈ１号住居址（西より）

Ｈ１号住居址　カマド（西より）

図版二



Ｈ１号住居址　掘り方（西より）

Ｈ１号住居址　カマド掘り方（西より）

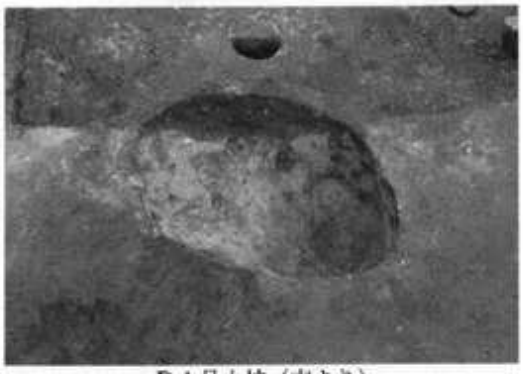
◀Ｈ２号住居址（南より）

Ｈ２号住居址　掘り方
（南より）

◀Ｈ３号住居址（東より）

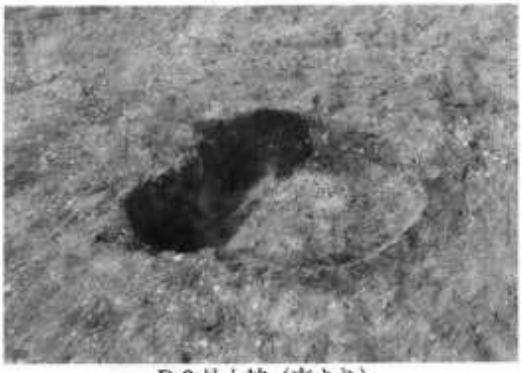
Ｈ３号住居址　掘り方
（東より）

◀F１号堀立柱建物址
（西より）



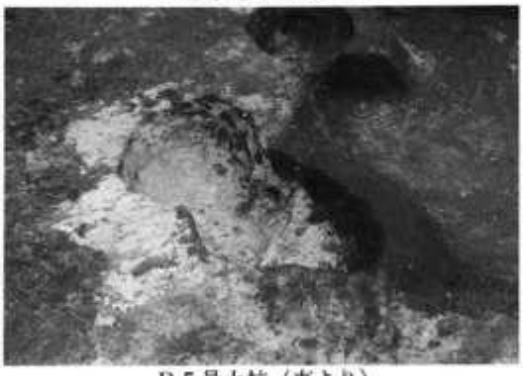
D１号土坑（南より）

D２号土坑（南より）



D３号土坑（南より）

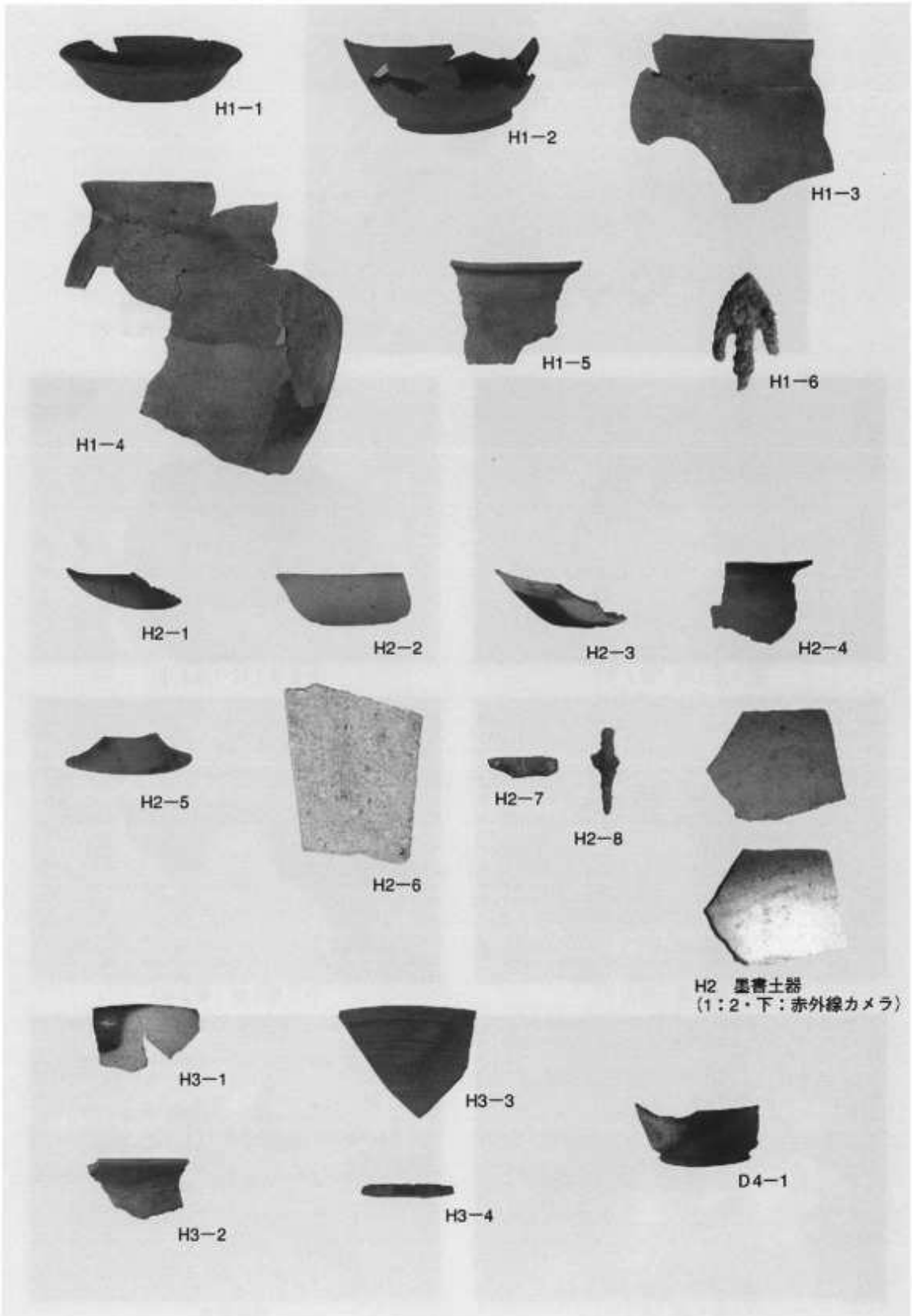
D４号土坑（南より）



D５号土坑（東より）

調査風景

図版四


H1−1
H1−2
H1−3
H1−4
H1−5
H1−6
H2−1
H2−2
H2−3
H2−4
H2−5
H2−6
H2−7
H2−8
H2　墨書土器
（1：2・下：赤外線カメラ）
H3−1
H3−3
D4−1
H3−2
H3−4

佐久市埋蔵文化財調査報告書

第１集　『金井城址』
第２集　『市内遺跡発掘調査報告書１９９０』
第３集　『石附窯址Ⅲ』
第４集　『大ふけ遺跡』
第５集　『立科Ｆ遺跡』
第６集　『上曽根遺跡』
第７集　『三貫畑遺跡』
第８集　『盗の下遺跡』
第９集　『国道１４１号線関係遺跡』
第10集　『聖原遺跡Ⅱ』
第11集　『赤座温外遺跡』
第12集　『若宮遺跡Ⅱ』
第13集　『上高山遺跡Ⅱ』
第14集　『栗毛坂遺跡』
第15集　『野馬久保遺跡』
第16集　『石並城跡』
第17集　『市内遺跡発掘調査報告書1991』
（１月～３月）
第18集　『西曽根遺跡』
第19集　『上芝宮遺跡』
第20集　『下聖端遺跡Ⅲ』
第21集　『金井城跡Ⅲ』
第22集　『市内遺跡発掘調査報告1991』
第23集　『南上中原・南下中原遺跡』
第24集　『上聖端遺跡』
第25集　『上久保田向遺跡Ⅳ』
第26集　『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』
第27集　『上久保田向遺跡Ⅲ』
第28集　『曽根新城Ⅴ』
第29集　『筒村遺跡Ｂ　山法師遺跡Ｂ』
第30集　『市内遺跡発掘調査報告1992』
第31集　『山法師遺跡Ａ　筒村遺跡Ａ』
第32集　『東ノ割』
第33集　『聖原遺跡Ⅶ　下曽根遺跡Ⅰ
前藤部遺跡２』
第34集　『西一本柳遺跡Ⅰ』
第35集　『市内遺跡発掘調査報告1993』
第36集　『蛇塚Ｂ遺跡Ⅲ』
第37集　『西一本柳遺跡Ⅱ　中西の久保遺跡Ⅰ』
第38集　『南下中原遺跡Ⅱ』
第39集　『中屋敷遺跡』
第40集　『寺畑遺跡』
第41集　『曽根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ
上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ
西曽根遺跡Ⅱ・Ⅲ』
第42集　『宮山』
第43集　『権現平遺跡・池端遺跡』
第44集　『寺添遺跡』
第45集　『市内遺跡発掘調査報告1994』
第46集　『渕り遺跡』
第47集　『上芝宮遺跡Ⅴ』
第48集　『池端城跡』
第49集　『根々井芝宮遺跡』
第50集　『藤塚遺跡Ⅲ』
第51集　『寺中遺跡　中屋敷遺跡Ⅱ』
第52集　『坪の内遺跡』
第53集　『円正坊遺跡Ⅱ』
第54集　『市内遺跡発掘調査報告1995』
第55集　『番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第56集　『聖原遺跡Ⅹ』
第57集　『高畑町遺跡Ⅱ』
第58集　『下虫穴遺跡Ⅰ』
第59集　『市内遺跡発掘調査報告書1996』
第60集　『曽根城遺跡Ⅱ』
第61集　『割地遺跡』
第62集　『野馬久保遺跡Ⅱ』
第63集　『西大久保遺跡Ⅲ』
第64集　『梨の木遺跡Ⅳ』
第65集　『中宿遺跡』
第66集　『中西ノ久保遺跡Ⅱ　仲田遺跡　寺畑遺跡Ⅱ』
第67集　『供養塚遺跡』
第68集　『前藤部遺跡』
第69集　『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第70集　『観音堂遺跡』
第71集　『市内遺跡発掘調査報告書1997』
第72集　『市道遺跡Ⅱ』
第73集　『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』
第74集　『五里田遺跡』
第75集　『八風山・五斗代』
第76集　『南近津遺跡』
第77集　『番屋前遺跡Ⅲ』
第78集　『蛇塚遺跡　蛇塚古墳』
第79集　『四ッ塚遺跡Ⅰ』
第80集　『四ッ塚遺跡Ⅱ』
第81集　『薬師寺遺跡』
第82集　『市内遺跡発掘調査報告書1998』
第83集　『下聖端遺跡Ⅳ』
第84集　『椿名平遺跡』
第85集　『柳堂遺跡』
第86集　『市内遺跡発掘調査報告書1999』
第87集　『宮添遺跡』
第88集　『下曽根遺跡』
第89集　『川原端遺跡』
第90集　『梨の木遺跡』
第91集　『西一本柳・中長塚・松の木遺跡』
第92集　『辻の前遺跡Ⅱ・中仲田遺跡Ⅱ』
第93集　『入高山遺跡』
第94集　『聖石遺跡』
第95集　『市内遺跡発掘調査報告書2000』
第96集　『上木戸遺跡』
第97集　『久種添遺跡』
第98集　『深堀Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』
第99集　『中道遺跡Ⅱ』
第100集　『野沢館跡Ⅲ』
第101集　『深堀遺跡Ⅳ』
第102集　『円正坊遺跡Ⅳ』
第103集　『聖原　第１分冊』
第104集　『聖石遺跡Ⅱ』

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第１０５集

曽根城遺跡Ⅲ

２００３年3月

編集・発行　　佐久市教育委員会
〒３８５－８５０１　長野県佐久市大字中込３０５０

文化財課
〒３８５－０００６　長野県佐久市大字志賀５９５３
ＴＥＬ　０２６７－６８－７３２１

印刷所　株式会社　櫟<いちい>